

「新しい日常」に向けて分散登校による 対面授業を再開いたしました

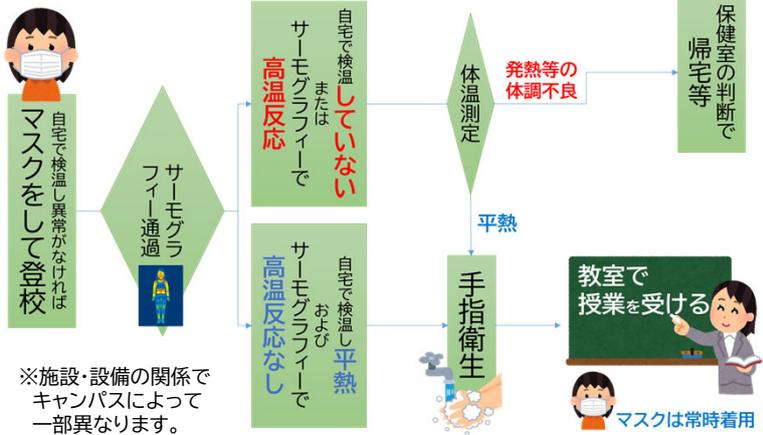
新型コロナウイルス感染症に対する緊急事態宣言やその後の東京アラートが解除されたことを受けて、本学では6月後半から分散登校による対面授業を開始しました。さらに7月から対面授業を行える時間を、2〜5時限目に拡大しました。実際の授業スケジュールは学部・学科・学年ごとに異なりますので、別途お知らせしています。ウィズコロナの時代では、感染対策を意識した新しい生活様式が求められます。このため本学でも引き続き遠隔授業を行います。感染対策については「東京医療保健大学 学生における新型コロナウイルス感染症の対応」を参照してください。登校時は、サーモグラフィーで体表温度を確認するとともに、マスク着用や手指衛生などの徹底をお願いします。

学長から学生の皆さんへ Welcome Back to THCU

登校再開を受けて、木村学長から学生の皆さんに歓迎メッセージを動画配信いたしました。desknet'sから視聴できますので、ぜひご覧ください。



パーテーションを設置した学生食堂(五反田)



※施設・設備の関係でキャンパスによって一部異なります。



小黒 道子 教授 増澤 祐子 助教

※iRAT: Individual Readiness Assurance Test (予習として個人で行うテスト)

「母性看護援助論」で行っているグループワークの進め方について教えてください。増澤助教…この科目では学生を分けただけの「グループ」ではなく、各々が役割を持って課題解決する「チーム」と呼びます。一チームに5人、学年で20チームあります。個人でiRATを解いて知識確認をします。次に、応用演習問題をチームで議論して提出し、最後に解説動画を見るとい流れです。チームでの議論はどのように進みますか。教員も入って指導するのでしょうか。増澤助教…チームでの議論は時間指定していて、基本は30分間で、学生はチャット機能を用いて議論します。パソコンで資料をみて、スマートフォンの打ち込みたりすることもできます。小黒教授…教員4人で各5チーム受け持ちます。議論は30分で終わるところが大半ですが、合意形成に1時間かかることも。なるべく時間で終わるよう指導しています。

チャットを活用しチームで 課題解決 千葉看護学部

「チャットを用いた議論という形態を選択して、感じたことがあれば教えてください。」増澤助教…チャットでは学生の思考過程がそのまま見えます。母性看護は健康な人の支援なので、他の領域と異なる面があります。その違いを正しく解釈できていないところを、後でフォローできるのは大きいです。小黒教授…今回の授業は3年生を対象としています。考えを記述する力がある程度あると判断し選んだ方法です。学生の特性に合わせて、教育ツールを選ぶことが重要だと考えています。



チャットによる議論の例 (デモ画面につき名前はダミーです)